

第146期京都中央労働学校 募集要項

講義時間は、午後7時～9時10分（休憩も含みます）

本科は、20回講義のうち15回以上出席した方に修了証書をお渡しします。専科は、10回講義のうち7回出席で修了証書をお渡しします。

テキストは、学習レジュメを準備しています。

受講料は、本科、10,000円、専科は、8,400円です。金額に消費税が含まれています。

各コースの会場は、『京都学習会館』（上京区堀川丸太町西一筋目上ル）です。

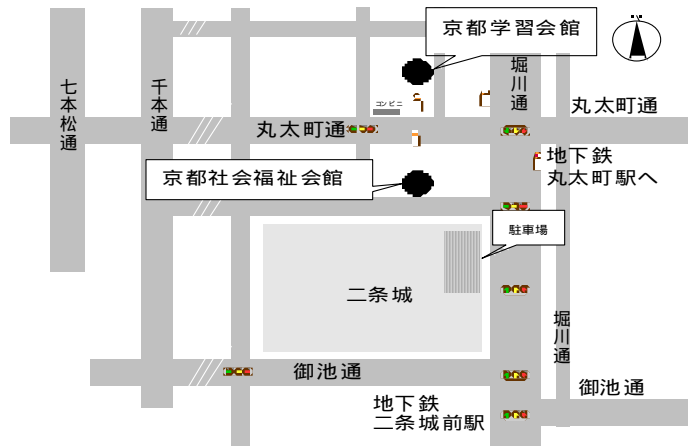
京都労働者学習協議会

電話(075)841-8141

FAX(075)821-3665

『京都学習会館』には二・四輪共に駐車場はありません。二条城市営駐車場へお願いします。

地下鉄丸太町駅・二条城前駅から『京都学習会館』まで歩いて10分以内です。



キリトリ

第146期京都中央労働学校 申込用紙			
申込みチェック	本科	経済学科	労働運動科-権利と労働法
ふりがな		性別	年齢
氏名:		男・女	才
現住所			
職場・学園			
労働組合	(全国単産)		
電話: 職場 ()	-	自宅 ()	-

生きづらさ、働きづらさの 根本原因を発見しよう

申込先は

京都労働者学習協議会

電話 075-841-8141

FAX 075-821-3665

京都中央労働学校 第146期生募集中!!

10月19日(土)午後7時 開校オリエンテーション



~~~~~  
 ￥￥ ￥￥ 競争 競争 自己責任 自己責任……  
 わたしたちは 誰のために生き 働いているのだろうか

中央労働学校の本科では、科学的社会主義を総合的・体系的に学びます。

みなさんは、この日本が資本主義社会であることをご存じですか。資本主義は「雇われて働く」ことを特徴としています。また、「利潤を目的に生産活動をおこな」っています。私たちが苦しめる不安定な雇用と長時間労働、「生きづらさ」.....みんなこの資本主義という仕組みから出てくるのです。これをまずとりあげます。そして、「知のESSCENCE」で「人間らしさと働くこと」、「知性とは、自由とは」と学び「わたしたちの考える力」を高めていきます。

資本主義は永遠の社会ではありません。封建制の社会が変わったように、新しい社会へと進んでゆきます。その法則・必然性を学びます。

日程

講義



10/19(土)開校オリエンテーション

10/22(火)第01課 マルクスは何を発見し変革したか

10/25(金)第02課 資本主義経済の基礎 商品の価値とはなにか

10/29(火)第03課 雇われて働くとはどういうことか 賃金は労働の価格か

11/01(金)第04課 利潤の源泉とその実現 搾取のしくみ

11/05(火)第05課 利潤はどのように分配されるか

資本主義社会の経済的基礎

11/08(金)第06課 不況はなぜおこるのか 景気循環と恐慌

11/12(火)第07課 \*知のESSCENCE 人間らしさと働くこと

11/15(金)第08課 賃金はしたら引き上げられるか

11/19(火)第09課 \*知のESSCENCE 「競争」は成長・発展の源泉か

11/22(金)第10課 労働組合の役割

11/26(火)第11課 \*知のESSCENCE 知性とは、自由とは

11/29(金)第12課 変革の視点で日本社会をとらえる

12/03(火)第13課 \*知のESSCENCE 現代の「神話」 と宗教を考える

12/06(金)第14課 日本の政党 その綱領と歴史

12/10(火)第15課 \*知のESSCENCE

現実をとらえる方法...唯物論と弁証法

12/13(金)第16課 資本主義の現段階 独占資本主義の基礎

12/17(火)第17課 \*知のESSCENCE マルクスの「社会観・歴史観」 とは

12/20(金)第18課 グロバリゼーションと「矛盾」の深化

12/24(火)第19課 世界と日本でひろがる社会変革の流れ

12/27(金)第20課 人類の未来社会「社会主義・共産主義」 とは



<第3課 雇われて働くとはどういうことか 賃金は労働の価格か>の感想  
労働者は労働力を売る以外に生活する方法がないというのを聞いて、すごく弱い立場にあるのかなぁと思いました。労働力という商品を資本家に売るといっても、すごく差を感じます。社会の発展と共に働く自由や権利はあたえられている。そして制度上、基本的にはどの資本家に能力を買ってもらうか決められるという事でしたが、現実とはかなりかけ離れている様に思います。

今まで、賃金とは労働への対価だと思っていたが、労働ではなく労働力への対価で、労働と労働力は違うと聞いて、最初は何で?と思ったが、話を聞いていくうちに、労働とは労働力を使った結果、もしくは過程というのを聞いてしっくりきた。

私達は自分の持っている労働力を売って生活しているということも初めて知りました。その中で、今の現状は労働力の価値以下の賃金であることは本当にショックをうけた。こうなっているのも資本主義制度自体のせいであると聞き、正直どうしようもないのかと思いましたが、講義の中でそのための労働組合であることを聞き、改めて組合の大切さを感じた。



<第5課 利潤の源泉とその実現-搾取のしくみ>

儲けはどこから来ているのかと聞かれたら、まようことなく、安く買って高く売った余りのお金と今までなら答えていたのではないかと感じる。今日の授業の中でそれは違うということが分かった。そして剰余価値が利潤になっているということも分かったのだが、まず剰余価値ということがよく理解出来なかった。作り出したものの余ったものが利潤という考えかたとは異なるのかだろうか。賃金が上がっても物価が上がらないという話であったが、それは物価が上がると賃金上がるのかというように疑問を持った。昔と比べると賃金も物価も上がっているのではないだろうか。

作り出したものの余ったものが利潤という考えかたとは異なるのかだろうか。賃金が上がっても物価が上がらないという話であったが、それは物価が上がると賃金上がるのかというように疑問を持った。昔と比べると賃金も物価も上がっているのではないだろうか。

<第7課 \*知のESSCENCE i 人間らしさと働くこと>の感想

サルから人間へ進化する上で労働が一番の影響を与え、また歴史的にみても「労働」が社会の大きな出来事を取りまとめていると思います。それだけ労働は人類にとって切っても切り離すことができないものだと思います。

人間が「労働」をするという当たり前の流れだと感じていた部分に対し、「労働」が人間を作り出したという考え方は私にとって新鮮。

労働がサルを人間に進化させ、人間の社会の発達に大きな影響を与えたという一方で、労働によって人間らしい生活を送ることを阻害されたり、ひいては人間社会にマイナスの影響を労働が持ちうるということで、労働の二面性のようなものを感じた講義でした。人間の生活や社会をより豊かなものにするため、労働をコントロールすることが大切だと思いました。

